



You revitalize Otani, Otani revitalizes You.

私たちが自分という人生を意識し始めるのはいつのことでしょう。はじめは遠く夢見がちに、やがて切実に、確かな現実として考えるようになるのは、いつのことでしょう。futureの自分を感じる。きみは、君自身のfutureをどのように感じていますか。自らの未来を、将来をどのように創造してゆか、その希望に胸を膨らませるとき、翼を広げて力いっぱい羽ばたき、飛び立つ勇気のときです。自分の全身を、新しい場のなかに、新しい風の中に置く。自分の中に新しい風を入れる、その風が、自身をrevitalizeしてくれる。新たな成長へとみちびいてくれるのです。新しい風を胸いっぱい吸い込む。その大気があなたを生き活きとさせてくれます。そして、そのことが、きみ自身を誰かのための新しい風とするのです。revitalizeとは、《re-再び、vitalize…を活気づける》。vitalとは、辞書には②として「活気ある、生き生きとした、エネルギーギッシュな」とあります。まさに新たな4月、新入生として新しい場に臨むあなたたちのことです。そのとき、あなたにどんな風が吹いているのでしょうか。そして、あなたはどんな風となっているのでしょうか。vitalの語は、先の辞書によれば、その①として「…にとって、不可欠な、きわめて重要な」と説明されています。その意を汲み取って言えば、お互

いが、互いにとって不可欠な、きわめて重要な人となるということなのです。私は、自分のためだけに生まれたわけではありません。他者の人生をより良くするために、他者の苦しみを和らげるために、私は何ができるのでしょうか。おおきな困難のなかにあるときこそ、そのいのちのたいせつな使命を手放さずに、急がず、焦らず、その答えのなさに、連帯を糧として耐えていく。そのあり方の大切さを思うことです。それができれば、危機を乗り越えられるだけでなく、よりよき新しい世界が必ず開け来たることとなるでしょう。



大谷中学・高等学校 校長
飯山 等



新しい風のなかへ



長女の子がようやく立ち上がり歩き始めたころのことです。保育園の同じ組には、生まれ月の違いによって、かけまわる児も居れば、まだはいはいが移動手段の児も居ます。あるとき、そのはいはい専門の児が不安げに立ち上がったとき、元気に駆け回っていた児がさっと手を差し出して、その子の手を握ってにっこり笑いかけました。不安いっばいなその子は、その児を見てにっこりと笑みを返しました。そして、二人はゆっくりと歩き始めました。私はその話を娘から聞き、それは、人が生きてきた、その歴史の原風景ではないかと思いました。そして、それはいのちの未来を開いてゆく、確かな起点であると受けとめたことです。

絵本作家の五味太郎さんの「じょうぶな頭とかしこい体になるために」〈ブロンズ新社(2006年刊)〉という不思議な題の本があります。この本の題が「じょうぶな体とかしこい頭になるために」であったならば、私は何の疑問もなく内容を想像して、心に残すことはなかったことでしょう。「じょうぶな体」「かしこい頭」「になるために」。そのすべてが腑に落ちます。でも、そうできなかったこの不思議な、不可解なとも言ってしまう題によって、強く私の心に残り続けています。私はまだこの本を読んではいません。読んでいないからこそだと思うのですが、大きな謎としてあり続けています。私がそうだと想っている、それだけだと思っていることは、そのすべてではなく、その事の一部なのではないか。ほんとうのことは、もっとひろくふかいのではないかと、次々と問いが押し寄せてきます。でも、それは、重く抑圧するようなものではなく、閉じていた窓が開け放たれて、新しい風が吹き込んできたような気持ちをもたらしてくれます。そして、そこに、いのちの育ちにとって大切なことが、そこにまで至ってこそ開かれる、いのちの真実があるように思うことです。深呼吸をして、いのちの大地の感触をしっかりと感じながら、歩んでいきたいと思っています。

大谷中学・高等学校 校長 飯山 等